

大阪大学グローバルCOEプログラム「コンフリクトの人文国際研究教育拠点」  
「コンフリクトの人文」セミナー 第42回

唯物論と物神崇拜：

シックスト・ガストン＝アグエロという忘却の穴から

講師：大杉 高司（一橋大学大学院社会学研究科教授）

要旨：

本発表は、シックスト・ガストン＝アグエロの著書『唯物論が解きあかす心霊主義とサンテリア』（1961）が提出した視野から、二〇世紀キューバにおける知の編成を逆照射し、革命がその実現をめざしてきた「近代化」プロジェクトの輪郭を浮かび上がらせようとする試みである。ガストン＝アグエロは、その生い立ちや知的遍歴を記録からうかがい知ることのできない、いわば無名の思想家—山口昌男にならえば「敗者」—にすぎない。また、エンゲルスやレーニンの「科学的唯物論」と、サンテリアとよばれる「物神崇拜」の整合性を論証しようとする著書の内容も、キューバ人研究者のみならず私たちもまた自明視する「ノーマル・サイエンス」の視野から眺めるならば、はなはだ荒唐無稽にうつる。しかし、かえってそのことによってガストン＝アグエロの著書は、一九五九年の革命勝利を挟んで展開されてきた「近代化」プロジェクトを異化し、それが他にありえたどのような可能性を排除しながら自己成型してきたのかを教えている。補助線となるのは、「近代化」を、自然と社会を分離する「純化」作業の積み重ねのうちにみる、科学人類学者ブルーノ・ラトゥールの見解である。本発表では、このラトゥールの見立てを、ガストン＝アグエロの「エソテリック唯物論」、エンゲルスとレーニン、そしてレーニンの論敵であったボグダーノフらの物質観と相対させ、その上で、ガストン＝アグエロを歴史から「消去」するに至ったキューバ「近代」知の特質の把握を試みる。

講師紹介：

1997年大阪大学大学院人間科学研究科人間学専攻退学。カリブ海諸国、とくにキューバとトリニダードをフィールドとして文化人類学的研究を進めている。最近の研究のキーワードは、クレオール、フェティシズム、アイロニー、ネットワークなど。著書に『無為のクレオール—現代人類学の射程』（1999年）、論文に「ある不完全性の歴史：20世紀キューバにおける精神と物質の時間」『文化人類学』第69-3号（2004年）など多数。

日時：2010年2月12日（金） 16:30 ~ 18:30

会場：大阪大学大学院人間科学研究科（吹田キャンパス） 東館1階 106教室（参加無料）

東館は、万博外周道路側の別館です。大阪大学大学院人間科学研究科（吹田キャンパス）への交通アクセスは<http://www.hus.osaka-u.ac.jp>をご参照ください。

お問い合わせ先：

大阪大学大学院人間科学研究科人類学研究室

e-mail: [globalra@hus.osaka-u.ac.jp](mailto:globalra@hus.osaka-u.ac.jp)

電話 06-6879-8085 / 06-6875-5111

